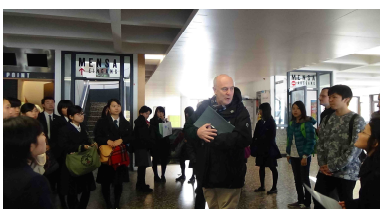


『ドイツ現地環境スタディ②』

- 日 時： 平成27年10月25日（日）～31日（土）
- 参加者： 2年SGコース生徒（33名）および職員（川上校長、坂西、鶴賓）
- 訪問先： ハイデルベルク・フライブルク・フランクフルト（ドイツ）
- 目 的： (1) 環境先進国ドイツで、大学訪問、環境関連施設の視察、姉妹校との交流等を行う。
(2) 事前の準備や事後の振り返り等をとおして、自国の文化や歴史について見つめなおし、英語発信力を向上させる。
(3) 環境学習から得た知識や情報を利用し、それぞれの課題研究の更なる深化をはかる。

【研修内容（3日目～4日目）】

10月27日（火）



1. 起床（7：00～）

2. ハイデルベルグ市庁舎訪問（9：00～）

熊本市と姉妹都市の関係にあるハイデルベルグ市の市庁舎を訪問した。荘厳な会議場に通され、歓待を受けた。前日交流したブンゼン・ギムナジウムの生徒たちも同席した。椅子の上にはお土産用のチョコレートが置いてあった。

歓迎のあいさつをいただき、ブンゼンギムナジウム校長、川上校長がそれぞれ謝辞及び姉妹校提携の喜びを述べた。最後は写真撮影をし、今後の継続的な友好関係を誓った。

3. フライブルクへ移動

ハイデルベルグからフライブルクへ移動。ドイツの高速道路アウトバーンに生徒も興味津々。途中日本のSA的なところに立ち寄り、約3時間ほどかけてフライブルクに到着した。

4. フライブルク教育大学訪問（14：00～）

大学の学食で昼食を食べた。日本人留学生とも対面。ドイツの地で輝く日本の若者に生徒も何かを感じ取っていたと思う。以下のような流れで進んだ。

(1) 学内ツアー（図書館見学）

(2) ドイツの教育制度についてのレクチャー（ドイツ語）

(3) 質疑（英語/日本語）

質疑の際、活発に挙手でできていたのは良かった。中には自身の英語力を試すべく英語で質問するツワモノ済々学生もいた。最後には活発な質疑の様子にお褒めの言葉をいただいた。

5. 現地学生・日本人留学生との交流（18：00～）

夕食は現地学生及び日本人留学生も交えた賑やかなものとなった。生徒たちの各テーブルごとに留学生が座り、英語や日本語を介して様々な話をしていた。

6・ホテルへ（20：30～）

フライブルクのホテルへ。ホテル着は遅くなったが、生徒たちは興奮のためか元気であった。研修3日目終了である。

10月28日(水)



1. 起床(7:00~)

2. リヒャルトファーレンバッハ工業高校訪問(9:00~)

日本の工業高校のイメージより高専に近い感じがした。理論だけでなく実践を大切にしていた教育がなされていた。前日の教育大学のレクチャーとつながる点も多々あり、生徒も興味深く視察していた。最後には熱を使った実験を披露してくれた。

3. フライブルグ市内視察(10:30~)

フライブルグ市街地を視察した。市電や自転車の利用者が多く、環境に対する配慮が市の政策の中に落とし込まれている点が印象に残った。ゴミ箱の種類もかなり多く、環境意識の高さを市のいたるところに垣間見ることができた。生徒たちも研究資料のための写真撮影に忙しそうであった。

活気にあふれた市場を視察し、ガイドさんのご好意で、しばし自由時間をいただいた。ここぞとばかりに買い物にいそむ姿も見られた。

4. バイオガス視察(14:00~)

昼食後バスで移動し、バイオガスプラントへ。大規模な工場施設であったが、従業員は12名ということに驚いた。代表者によるバイオマス生成過程のレクチャーを受けた。ここでも積極的に質問する様子が見られた。

エネルギー系の研究をしている生徒にはかなり有益な情報が得られたのではなかったか。

5. シュバルツバルド(黒い森)視察(15:30~)

ドイツ南西部を南北に走る森林地帯「黒い森」へ。森林再生にかかわる話を現地コーディネーターの方から聞くことができた。天気もよく、スイスアルプスが見えるという幸運にも恵まれた。

市内へと帰るバスの中でコーディネーターの方から、観光とは「違う場所の光を観る」ことであるという話を聞いた。生徒たちの中にも感銘を受けたものがいたようであった。

今回の研修中に何か見出したものは？

6. 夕食後ホテルへ(19:30~)

夜のフライブルグ市街地を歩いて夕食会場へ。生徒たちは昼間とはまた違った町の雰囲気味わえたのではないかなと思う。少し散策の自由時間をとった。全員そろってホテルへ。研修も4日目終了した。

